

前奏	トーンチャイム	讃美歌	106	あら野のはてに
讃美歌	108	いざうたえ、いざいわえ	聖餐式	
祈禱			讃美歌	205
信仰告白	使徒信条	566	献金	トーンチャイム
聖書	民数記	6:5~8	讃詠	547
	ルカによる福音書	2:15~20	黙禱	
讃美歌	109	きよしこのよる	主の祈り	564
説教	『民に献げられた聖なる人』		讃詠	545
祈禱			祝禱	後奏 トーンチャイム

「天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、〔さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか〕と話し合った(ルカ2:15)。「さあ、行こう」と言っても、まだ夜中。ヨセフとマリアが寝入っていると、突然扉が開き、見知らぬ羊飼いが数人もっさり現れて、彼らは仰天した。頼み込んで泊まった家畜小屋なので、そのくらいの迷惑はいたしかたないのか。

翌朝、羊の番を一人残して、他の羊飼いたちがベツレヘムの町へ行くのが常識的な判断。だが彼らは天使に命じられもないのに、自主的に真夜中の野を「急いで行って、マリアとヨセフ、また飼いや、葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた(2:16)」。東方の占星術学者は、星に導かれて生まれた救い主に辿り着いたが(マタイ2:9)、羊飼いは荒れ野で培った「野生のカン」でその場を探し当てたのか。

それにしても、羊飼いたちは気が短か過ぎないか。翌日、落ち着いて数多ある「飼いや桶(ルカ2:12)」を探して行けばいいものを。確かに、合理的にはそうだろう。だが羊飼いたちにとっての「それ」は「今」、「今日ダビデの町で」だ。「あなたがたのために救い主がお生まれになった(2:11)」。貧し過ぎて(2:8)税徴収(2:1)の対象にもならない「私たち」のために、救い主が生まれた。ちっぽけな「私」のために、だ。希望なく黙りこく(2:8)、ただ朝を待っていられようか。天使は彼らに開口一番「恐れるな(2:10)」と告げた。夜の野に羊を置き去りにしたら危険だ、とか、救い主をどうやって見つけるのか、とか、神は何をしてくれるのか、とか、そんな逡巡する「恐れ」をふり払い全速で走った。

そしてもう一つ、重要なのは「夜」。羊飼いは「自分の夜」を突き進んだ。「夜」とは何であろうか。私たちの隠れた領域。罪や、恥や、いろいろな暗い感情も含まれよう。天使の「恐れるな」という声を受け、自分でも見たくない触れたくない自分自身の「夜」を、恐れず走り抜けた。明日ではない、今日だ(2:11)。段取りしてからではない、今だ(2:16)。昼ではない、夜だ。常識を優先しての翌日では、貧しい救い主と出会えまい。朝になれば羊飼いや桶同士で「昨夜の天の大軍(2:13)は凄かったな」と語り合うだろう。しかし「昼」の感覚では、飼いや桶に眠る「乳飲み子(2:12)」の救い主など興味ない。

古い伝統では「ナジル人」という神への献身者が、男女の別なく現れた。「ナジル人である期間中、その人は主にささげられた聖なる者である(民数 6:8)」。ナジル人は葡萄酒もブランデーもワインビネガーも葡萄ジュースも飲まない(6:3)。洗礼者ヨハネがそうであり(ルカ1:15)、イエスはナジル人として(22:18)十字架に赴いた。ナジル人は酒を飲まず、死者には触れないが(民数 6:6)、イエスは大酒飲みで(ルカ7:34)平気で死者に触れた(8:54)。イエスは徹底して俗なる人間と共に生きた聖なる人。民から「主にささげられる聖なる者(民数 6:8)」というよりも、「主から(民に)ささげられた」聖なる人であった。

羊飼いは「飼いや桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた(ルカ2:16)」。俺らと同じように藁の中で眠る救い主。彼らはそれを見て、救いの何たるかをリアルに受け取った。相も変わらず貧しいが、神の愛を感じ、救いへの賛美が自然に生じた(2:20)。マリアは「すべて心に納めて、思い巡らしていた(2:19)。

私たちは神に礼拝を献げる その前に神が一人ひとりに礼拝の基を献げてくれた キリストの降誕 地上の全てが聖なる場となり 全ての時が聖なる瞬間となり 全ての人 が 聖なる者となるために クリスマスおめでとうございます。12/24(火)6:00~7:00 キャンドルサービス。12/28(土)10:00~12:00 お餅つき。教会暦では2025年1月6日(月)が公現日なのでそこまでがクリスマス期間です。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メールkomechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。